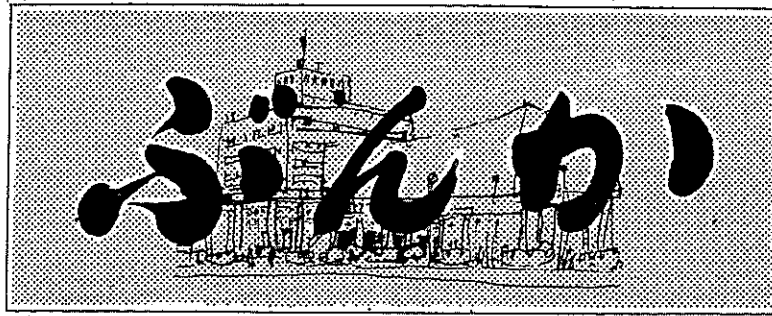


100号

1977.8



発行所
富山県民会館文化友の会
富山市新総曲輪4の18
富山県民会館内
郵便番号 930
電話 富山32-3111(代)
郵便振替口座金沢 10561番

毎月27日発行
購読料 1部20円

「ぶんか」100号の発刊にあたり

盛夏の候、会員のみなさまにはますますご健勝のことと存じあげます。

昭和44年4月に「富山県民会館音楽友の会」を改組し、「富山県民会館文化友の会」が生まれ、以来毎月機関誌「ぶんか」を発行するようになってから、今回100号の発刊をむかえました。

当初は主に県民会館の行事を案内していましたが、第24号より県内の主な文化行事を広く紹介するようになり、充実した内容となって読者に喜ばれております。この「ぶんか」の形は、創刊号より100号まで、一貫した形と編集方針を続けてきておりますが、今後内容について会員諸兄のご要望があれば、事務局まで申し出ていただきたいと思っております。

友の会の会員の増加につきましても努力しておりますが、とりわけ昭和49年4月に富山県教職員旧友会が団体で入会(当時1,300名、現在1,800名)していただいているのが大きな支えとなっております。

現在、友の会の活躍状況は、この「ぶんか」の発行のほか、美術教室(日本画、洋画、デッサンの3講座、毎週各1回)。文化講演会(年3回)。県内作家美術展(毎年12月、今年は第8回目)。会員研修旅行(今年は「近江路への旅—やきものと歴史のふるさとを訪ねて」)などの事業をおこなっております。今後共、友の会の企画運営につきましても、運営委員会や各委員会と協議し、会員の要望に応えられる事業をすすめてゆきたいと思っております。

本会も発足して8年を迎え、基盤の確立したことは会員のご理解をはじめ、各役員方のご努力ならびに、県民会館当局のご協力によるものであり、ここに厚くお礼を申しあげる次第です。そしてこの「ぶんか」の100号の発刊を機に、わたしたちの文化友の会がますます飛躍するよう従来にも増してご指導、ご協力をお願いしてご挨拶いたします。

(富山県民会館文化友の会会長 源初太郎)

丸山豊一回顧 富山師範・富山大学OB展によせて

鯉といえば丸山先生、丸山先生といえば鯉といわれるほど鯉が先生の作品に描かれるようになってから、

かれこれ20年近くになる。

どうして鯉をとりあげられるようになったか、その動機について直接伺ったことはない。が、ある雑誌に「人間が見れば、狭い池であっても、鯉にとっては宇宙にも通じる、自由なる空間である。その空間をさまざまな姿態で泳ぐさまを見ていると、いつまでもあきない」と述べていられる。

昭和34年にはじめて「池」としてとりあげられて以来、「遊鯉」「群泳」そして「悠泳」にいたる一連の作品は、先生のお人柄を知る私にとって主題の文字にも味わい深いものを感じる。

それまでの作品は、どちらかといえば、部屋の一角であったり、あるいは干魚や、塩魚などの“静”を中心とした世界であり、しかも限られた光の世界であったように思われる。その意味では、この時代の作品は今日の丸山芸術のプロローグであったのかも知れない。

先のことばにもあったように、大自然の光と水がおりなす無碍の世界を、疑うこともなく悠々と遊ぶ鯉の姿から、生命あるものの美しさおよびよこぎりが伝わってくるようである。



「群泳」

丸山豊一

また、先生が鯉とともに泳ぎたわむれられた話を聞くにつけても、そこに一人の芸術家としての、そして教師としての願いが感じられてならない。

今回の先生の回顧展は、昭和21年から52年までの作品18点である。今春、富山大学を退官された。その記念行事の一環として、私ども教え子の要望によるものである。富山師範時代、富山大学時代の教え子は少ない。その教え子60名余の者が作品をたずさえ一堂に会することは、はじめてのことである。先生と同じ道を歩む者どもとは、いい難い。が、先生を敬慕するものの集まりといえよう。ご高覧いただければ幸いです。

(中山法遂 記)

第8回新樹会研究演奏会

新樹会が主催する「歌とピアノの夕べ」は第8回になります。県内から、音楽大学など、専門の教育を受けた若い音楽家の研究会として、新樹会が発足して、10年になりますので、10周年記念ということになります。40名の会員の中から、今回は18名が出演します。声楽では、新井文男、貫和あをひ、高松章子、松下正樹、荒川真理子、丸山寿美江、小笹由佳子、稗田幹子、相川克之、山本博子。ピアノでは、寺西真知子、広瀬知子、湊比奈子、飛世章子、早川良子、山崎恵子、楠瀬美保子、ピアノ伴奏の新井智子。

演奏曲目は、イタリー、ドイツの古典的なリート、オペラのアリアを主体としていますが、例年、日本歌曲のステージとして、一人の作曲家の作品をまとめて歌い、研究する方向で来ました。これまで、山田耕作、信時潔、中田喜直、平井康三郎などを歌い、今回は橋本國彦の歌曲作品をとりあげます。ピアノ演奏は、シューマン、ブラームス、リスト、ドビッシューなど、ロマン派の作品が主体をなしています。

演奏会を持つことが、経費的にも本当に大変な時代ですが、音楽家として、なんといっても舞台での真剣な演奏、そのための大きな努力が大切でしょう。日常の活動、教育においても、そこから得た音楽への心なくして、良いものが生れないように思います。私たちは、そのようなことを願って、研究会を作り、活動しています。

(新樹会主宰 新井文男)

富山県吹奏楽まつり

ブラスのドリル演奏による祭典、第26回富山県芸術祭主催公演の「吹奏楽まつり」は、富山県学校吹奏楽連盟の最も力を入れる行事です。この「吹奏楽まつり」は、吹奏楽の普及と理解を目的に行なうもので、視覚的变化に富んだ楽しい企画です。

若人達が演ずるステージパレードは、華やかなユニホームに彩られ、躍動するリズムにのって、演奏しながらキビキビとした動作でバンドごとに特色ある演技を披露するものです。それは、まさに青春の炎であり、音と光による夢のファンタジーといえましょう。

今年は、連盟発足20周年を記念して、小学生から高校生まで約800人が出演します。小学校では、この「まつり」に参加し発表することを目標に学校・父兄共に熱を入れているのが現状であると言ってもよい位です。なかでも富山市の山室小学校、滑川市の寺家小学校そして立山町の立山中央小学校の演奏は定評があり、山室中学校、富山南部中学校のドリル演奏には非常に期待がもてます。その他高校生のすばらしい演技と演奏を一人でも多くの県民の皆様に見て聞いていただき

たいものだとお願いいたしております。

(富山県学校吹奏楽連盟事務局長 薩摩利夫)

第1回近代日本美術富山支部展によせて

近代日本美術協会展はうぶ声をあげて今年で4年目に当る新しい展覧会である。

この展覧会の特長はといえば一口で答えることは困難であるが、しいてあげれば、作品の傾向は具象、抽象を問わないこと、もっとも時代に即応した美術の発展を期待している。次は、会の運営が民主的で、埋れた英才、作家を育てるため道が開かれていることである。若い展覧会にふさわしく、フェアプレーの精神で会が運営されている全く若々しくエネルギッシュな展覧会である。

新塊樹社にいた千木良富士が会長で、事務局長に沼田稔夫がいる。このコンビが会の樞取りをしているわけである。年々出品者数が増え続けているのもこうした会の方針が好感を与えているものと思われる。

富山でも支部が本年誕生し、10名の支部員の参加を見た。メンバーは画歴0才の新人から何十年というベテランまでさまざまである。こうした展覧会を機会に県下の皆さんの御指導を得、また各自の発展と相互の研さん、親睦の機会としたいと思っている。

(近代日本美術協会富山支部 竹島俊夫)

前衛書へのいざない

前衛書という言葉がいつ我々の書に冠せられたのかさだかではない。この呼称が穏当なものではないことを自分に言い聞かせながら制作に没頭してきた。そうこうしているうちに定着してしまった感じである。

今日ほど書の華やかなときはないと言う。しかも多岐に亘っている。それだけに足許を見失って書の本質を忘れていたのではないかと危惧するものである。もちろん我々の前衛においても然り。

今一度書の原点に遡り、書道史をひもとくとき古典といわれる名蹟を鑑賞するとよい。

書は本来文字を媒体として生れた芸術である。意志伝達の目的をもって生れた文字に、自己の生命を付与した視覚形象の美とあってよろしいかと思う。どの時代の古典をとりあげても、それは立派な前人未踏の作品ではなかったのか、それぞれの作家は数多くのもを見、そして習い自己確立を果たしたのではないか、生命の所産と考えてよろしいのではないか。要は形式がどうこう言うのではなく、生れ出でた作品について問われるものなのではないか。具象、非具象ということにこだわっては前衛書は語れないと思うのです。

師があり弟があって厳しい伝承の掟の中で培われた従来の書に対する人間解放ののろしが戦後激しく盛り上がった。そして種々な書体や形式や技法が研究された

その中でも一群の人達は非具象にとりくんだ。それ等の人達に前衛書人の名を冠したのではないか。

書壇が確立すればするほどに、師の技法まるだしの書が氾濫し、少しも止るところを知らない。書は世の近代化に逆行して生命を失いつつ似て非なる繁栄を謳歌しているかのようである。形式はとあれ生命の軌跡と言える書、これが前衛書と言えそうだ。創るものの心、制作態度、その過程、そして作品、その中で前衛であるか否かが問われると信じている。

いうならば、師から手本をもらって書きあげ、それで入賞入選、書作家といわれてはあまりにも悲しい。あまりにも前近代的書道界なのである。その辺からの改革が前衛の始まりと思うのだが……。

(富山奎星会代表 石井南耕)

来し方をふり返りながら

雨あがりの夜空に皓々と冴えわたる月、すがすがしい風一陣。その中で静かに夜明けを待ちながら、来し方をふり返っております。

昭和39年、県民会館学園の誕生と同時に、佐藤良正先生のお声がかかりで茶道教室講師として、茶室清々軒に修業の一步をふみ入れてから、早いものでもう十年余の歳月が流れました。思えばその間、いろいろな行事があり、またいろいろな出会いがありました。学園開講と席開きを兼ねての東京オリンピック協賛茶会もその一つであります。表千家の河合宗珠先生がお濃茶席を、裏千家の私が薄茶席を担当し、二流派力を合せての大茶会となり、茶道教室の名を大いに広め得たと思っております。

また、毎年3月に行なわれる学園祭には、表千家、裏千家が交互に席をもち、学園生の交流親睦をはかりつつ、日頃の稽古の研鑽に役立てております。未熟ながらも一年間に身につけたことを実践するよい機会であり、一盃の茶をどうしたらおいしくいただいてもらえるかということにみんなで心を配る楽しい一日でもあります。

明治百年の文化の日には「百」の字の幅をかけて一服の茶を分かち合ったこと、外国からの珍客を迎えて手ぶり身ぶりで茶をさしあげとても喜んでいただいたことなど、数々の思い出が次々と浮んでまいります。

ただひたすらに茶を愛し、忍耐と努力をモットーに、これからもつつましい心でこの道を辿っていきたく念じております。

毎週木曜日の午後、清々軒の格子戸をくぐり、つくばいで清めをした後、まず床に向かって心静かに花を生ける時、様々の雑念が払われて、今日もまたつつがなく一盃を茶をいただける喜びにひたるのです。無心にそこはかと咲く茶花は私の心をやわらげ、また生徒の

心を和ませてくれます。

「一盃からピースフルネスを」というのが私共の御家元が提唱されている言葉ですが、とてもこの言葉のように社会に大きく働きかける力には私にはありません。ただせめてその日茶席を訪れる人の心に涼風をおくりたいものと願っております。

(富山県民会館学園茶道教室講師 亀井宗園)

編集室より

「ぶんか」が現在のような形として創刊したのが、昭和44年の4月(5月号)からで、以来100ヵ月がたち、ここに100号をお届けします。そのとき折々の美術展や音楽会などをお知らせしてきましたが、こんな小さな紙面を通じて、芸術に親しむようになった人達がほんの少し多くなったのではないかとひそかに自負してみたりしているところです。

わたしは、昨年9月号(89号)から編集を担当していますが、今日までこうして続いてまいりましたのも、会員の方々や役員各位のご協力のほかに、宮脇施設課長(前事業課長)の友の会に対する情熱があったからこそで、改めて敬意を表したいと思います。

この「ぶんか」の紙面は、催し物の関係者の寄稿によって構成していますが、原稿を依頼した方々には、いつも心よく執筆を引き受けていただけるのも、担当者として幸せなことです。

みなさまには、当紙の充実した紙面づくりに、尚一層のお力添えをお願いいたします。

(富山県民会館事業課長 吉沢 孝)

県内文化行事

◆美 術◆

- ▲美しき日本の絵画展
7月21日－8月7日
高岡市美術館
- ▲浮世絵展
7月24日－8月24日
富山市郷土博物館
- ▲五十嵐秀人叙事詩の絵書展
7月27日－8月2日
県民会館美術館
- ▲沖野栄佑個展(絵画)
4日－8日
県民会館 301号B
- △ 丸山豊一回顧展
富山師範・富山大学OB
4日－8日
県民会館美術館
- ▲坂田盤個展(ペン画)
5日－9日
県民会館 301号A
- ▲藤江民子版画個展
9日－12日
県民会館 301号B
- ▲第4回独立富山支部書展
11日－14日
県民会館美術館

- ▲佐伯教通小品展
11日-16日 北電高岡サービスステーション
- △第1回近代日本美術富山支部展
12日-14日 県民会館2階展示場
- ▲8+α展(絵画)
14日-16日 県民会館301号A・B
- ▲ホワイト会展(絵画)
18日-21日 県民会館301号A・B
- ▲矢野青雲遺墨展
18日-24日 高岡市美術館
- ▲らっちゃん会展(絵画)
18日-22日 高岡市博物館
- ▲川西春美油絵展
19日-22日 富山テレビサービスセンター
- △第24回富山奎星書作展
20日-22日 県民会館美術館
- ▲3人展(洋画, 版画)
22日-24日 県民会館301号A
- ▲新世美術会展(絵画)
25日-31日 高岡市博物館
- ▲森弘個展(洋画)
26日-29日 県民会館301号A
- ▲名匠6人展
27日-9月18日 富山市郷土博物館
- ▲高岡写真作家協会展
28日-9月4日 高岡市美術館

◇音楽◇

- ▲フォーライフ・フレッシュ・フォワードフェスティバル
4日 17時30分 800 当日200増 県民会館ホール
- ▲肥田みね子ピアノリサイタル
5日 県教育文化会館
- ▲第20回富商定期演奏会
6日, 8日 18時 7日, 13時, 18時 300 富山市公会堂
- ▲グループ「ドルチェ」ピアノ研究発表会
7日 12時 県教育文化会館
- ▲富山児童音楽センター合同発表会
8日 9時30分 入場無料 県民会館ホール
- ▲同志社大学軽音楽部富山演奏会
9日 18時 500 県民会館ホール
- ▲中部高校定期演奏会
9日 14時 200 富山市公会堂

- △富山県吹奏楽まつり
10日 14時 300 富山市公会堂
- ▲東高校定期演奏会
13日 14時30分 150 県民会館ホール
- ▲「葦笛会」フルートコンサート
19日 県教育文化会館
- △第8回新樹会研究演奏会
18日 18時30分 600 400 県民会館ホール
- ▲カワイ音楽教室発表会
21日 県民会館ホール
- ▲サザンクロスフォークロックコンサート
29日 県教育文化会館
- ▲常盤津明石太夫芸道25周年明石会10周年記念明石会
28日 10時 入場無料 県民会館ホール
- ▲ラテンアメリカ音楽の旅インテイ(ペルーの太陽)
29日 18時30分 一般2,200 会員1,900 富山市公会堂
- 30日 " " " 高岡市民会館
- ▲中部日本吹奏楽コンクール県大会
30日 14時 300 富山市公会堂

◇演劇◇

- ▲子ども劇場「こじき王子」
5日 11時 14時 650 県民会館ホール
- ▲児童劇「女王の幸福」
11日 11時 14時 900 県民会館ホール
- ▲子供芸術劇場「竹とり物語」
11日 13時 入場無料 富山市公会堂
- ▲第3回西武ファミリー劇場「そんごくうの大冒険」
16日 整理券 県民会館ホール
- ▲ぬいぐるみ人形劇「ぶんぶく茶釜」
17日 10時 14時 300 当日50増 高岡市民会館
- 18日 10時 14時 300 当日50増 県民会館ホール
- ▲人形劇団ひとみ座「大どろぼう」
27日 18時 会員制 県民会館ホール

◇映画◇

- ▲サマーフェス・オブ・ザ・ビートルズ
10日 14時 900 県民会館ホール
- ▲親子名画劇場「文なし横丁の人々」他
26日 県教育文化会館
- ▲ダイワヤングフィッシングクラブ映画会
26日 13時 入場無料 県民会館ホール

コーヒー・お食事のご用命は



1階 喫茶
喫茶
軽食

8階 宴会場
各種
パーティー
ご会食に



グリル

富山城址公園が一望にみわたせ
静かで気やかな雰囲気の洋食・和風料理

キャッスル

富山名鉄産業株式会社

営業時間 9:30~19:00
TEL (0764) 32-5062~3